


2018 年度事業報告および決算

2019 年 6 月 11 日

 北陸経済連合会

2018 年度事業計画の実施状況と評価・方向性（総合対策委員会）

アクションプラン実施項目	平成 30 年度事業計画	実施状況	評 価・方向性
<p>(1) 地方定着・地方回帰による定住人口増加に向けた取組み ①魅力ある仕事、職場の創出</p>	<p>・企業の技術開発や競争力の強化、人材育成に資する国・県等の支援制度の紹介（HP、トピックス、懇談会等）</p>	<p>○当会HPによる国等の施策の紹介 ・「G空間ICT第3回北陸まちづくりトライコンクールマッチングイベント」（総務省北陸総合通信局 他）(6/8) ・「人材活用に向けた自社課題発見セミナー」（中部経済産業局）(8/21、22) ・「知財のミカタ～巡回特許庁 in 福井～」(特許庁、近畿経済産業局 他)等 27件発信</p>	<p>・当会HPを主として、会報・トピックスも活用した紹介を継続</p>
<p>②北陸地域内大学との連携による人材育成および域内就業促進 ・「北陸のシェアトップ100」等による北陸地域の優れた企業のPR ・北陸地域内企業のインターンシップ制度の導入促進 ・北陸地域内企業の優れた人材の大学への講師派遣の促進 ・国際人の育成（海外インターンシップの促進支援 等）</p>	<p>・「北陸のシェアトップ150」の各大学への配布、周知、大学説明会等での活用 ・会員大学就職課との更なる連携（企業情報提供、北陸生活環境の優れた点アピール） ・北陸での就職率向上を目指した、三県推進組織との連携（会員企業との個別マッチング、域内企業情報提供、北陸生活環境の優れた点アピール、会員企業への三県推進組織の紹介） ・インターンシップに関する情報等（実施例、補助金等制度等）の会員への提供 ・COC+事業の動向把握および支援 ・他経連取組み状況調査（中経連ほか） ・北陸内大学（会員大学）での実態やニーズ（希望人材、講義内容等）調査 ・会員企業と大学とのマッチング支援（ASEANを中心とした海外インターンシップ） ・北陸AJEC、JICA等との連携、支援（補助制度の説明や案内等） ・域内大学留学生の域内定着（就業）支援</p>	<p>○「北陸のシェアトップ150」の発行（4/6） ・掲載項目を155品目に拡大し、AR機能を付加 ・各種懇談会・講演会・展示会等において配付、PRを実施 ○福井県外国人留学生採用支援セミナーへの協力（4/11） ・HP等による会員向け周知 ○第5回北陸産学連携懇談会（学長懇）開催（8/1） ・懇談テーマ：「産学連携によるイノベーションの推進」 ○北陸産学連携交流会開催（3/18） ・懇談テーマ：「北陸地域が一体となった産学連携の強化策を考える」 ○福井大学見学会（先端技術推進委との合同開催）（8/1） ・会員企業による福井大学文京キャンパスでの研究内容視察 ○「はばたけ地域創生サミット FUKUI COC+」（11/13）に協力・参加 ○「ALL 富山 COC+シンポジウム」（12/18）に協力・参加 ○中部経済連合会における「企業・人材プール」事業（会員企業から会員大学へ講師派遣）の取組状況について確認（2018年度）4大学で13社・団体が17コマの講義を実施（10月現在） ○金沢大学が取り組む『「かがやき・つなぐ」北陸・信州留学生就職促進プログラム』に推進協議会委員として協力 ・コンソーシアム推進協議会・総会・シンポジウムに参加（11/29：長野市） ・セミナー「外国人留学生と日本人社員の異文化ギャップを味わう」に協力（12/18：金沢市） ○北陸AJECと連携し、北陸先端大学の韓国人留学生をインターンシップとして受入（北陸・韓国経済交流会議前後の8～9月） ○「ベトナム-日本 貿易・投資セミナー in 富山」（5/25） ・富山大学、富山国際大学の留学生を招待 ○「インドネシア行政官との経済交流会議 in 金沢」（9/3） ・金沢大学、北陸先端大学の留学生を招待 ○「ベトナム政府高官との経済交流会議 in 金沢」（10/25） ・金沢大学、北陸先端大学、福井大学の留学生を招待</p>	<p>・大学の「知」と連携した産業振興や国際経済交流などの事業の推進と、経済界としての北陸の「知」の拠点である大学の発展に向けた協力を継続 ・「北陸のシェアトップ150」を機会あるごとに配付・説明し、北陸の企業・産業に関する積極的なPRを実施 ・学生の地元企業に対する認識を深めるため、各県インターンシップ推進組織や大学のCOC+事業との連携を強化 ・講師派遣に関する他経連取組み状況の調査を実施するとともに、北陸地域の大学側のニーズを把握 ・留学生に対して地元企業との出会いの場を提供し、両者の交流・情報交換の場を提供するなど、留学生の定着促進に向けた取組みを継続</p>
<p>③域外大学進学者等のUIJターンの促進 ・域外大学進学者に対する「北陸シェアトップ100」等による北陸地域内の優れた企業のPR</p>	<p>・自治体等との連携（域外での就職フェア等へ協力） ・域外大学（大都市圏大学の就職担当部門）への情報発信</p>	<p>○関東地区大学理工系就職研究会との「企業と大学の情報交換会」の実施 ・関就研10大学（※1）の就職指導担当者、会員企業44社の採用担当者、北陸3県のUIJターン推進担当者による就職情報交換会の実施（10/17：金沢） ・北陸企業5社（※2）の見学会実施〔採用方針聞き取り、最先端生産設備視察〕（10/17～18） （※1）神奈川工科大学・工学院大学・埼玉工業大学・玉川大学・千葉工業大学・東京工芸大学・東京電機大学・東京理科大学・日本工業大学・明星大学 （※2）津田駒工業、澁谷工業、アイ・オー・データ機器、立山科学工業、リッチェル</p>	<p>・接点の少ない関東地方の理工系大学に自社情報を発信できる貴重な機会であり、継続的に開催してほしいとの参加会員企業からの要望が多かったことから、次年度についても開催の方向で検討</p>

アクションプラン実施項目	平成30年度事業計画	実施状況	評価・方向性
(2) 女性が働き続けられる社会の実現に向けた取組み ① 女性部会の提言（子育て、介護等、離職防止のための施策に関するもの等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親家庭の北陸移住に向けたPR、部会員による女性活躍先進企業や自治体等の先進事例視察、意見交換 ・性別にかかわらず一人ひとりが働き続けられる社会実現に向けた政府要望項目検討、政府要望活動への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○ひとり親家庭の北陸移住推進 <ul style="list-style-type: none"> ・今後の活動の方向性について部会にて議論（10/26） ○政府要望対応 <ul style="list-style-type: none"> ・政府要望項目の検討（5/17、6/21） ・要望書本書とは別に、女性部会としての要望事項を取りまとめた「女性部会としての提言（要望）」を作成（ひとり親家庭の北陸移住推進に向けた支援、貧困児童を取り巻く環境改善、児童虐待問題への適切な対応、セクハラ・パワハラ根絶に向けた取組強化等） ・浅野女性部会長、森田副部会長による政府要望の実施（7/25） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親との交流会[ワークショップ]の開催（東京等）（ひとり親が何に困っていて、何を求めているか等について聞き取るとともに、北陸の働きやすさ・住みやすさをPR） ・部会メンバーの意識向上、スキルアップに資する勉強会（講演会）の実施 ・女性部会としての要望事項に関する政府の施策への反映状況を確認し（H31年春頃）、女性の視点からの要望事項の検討を継続
(3) リタイア人材の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・国、自治体等が主催するセミナー、合同説明会、各種支援制度等の当会HP、懇談会等を活用した支援、紹介 ・合同説明会への会員企業の参加呼びかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ○当会HPでの高齢者雇用に関する国・県の支援策、セミナー等の情報発信の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・当会HPの「シルバー世代の雇用」のページにおいて、北陸三県および労働局、(独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構の施策を発信 ・上記機関の要請により、当連合会のトップページで説明会、セミナー等の開催案内を発信 「平成30年度 雇用に関わる助成金等説明会」(7/17) 「高齢者雇用セミナー2018」(10/30) ○説明会、セミナー等への参加 <ul style="list-style-type: none"> ・「平成30年度 雇用に関わる助成金等説明会」への参加(7/17) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も当会HPを活用した情報発信およびセミナー等への参加を継続（シルバー人材の就業経験の活用等）
(4) 二地域居住の推進支援	<ul style="list-style-type: none"> ・北陸の魅力PR実施（北陸イメージアップ推進協議会HP等） ・北陸域内の二地域居住事例調査・紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ○当会HPおよび北陸イメージアップ推進会議HPでの北陸の魅力、移住情報等の情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・当会HPの「二地域居住・移住」のページにおいて、北陸三県等の施策を発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も当会HPを活用した情報発信を継続 ・今年度改修された北陸イメージアップ推進会議HPを活用し、北陸の魅力や移住情報等の情報発信の強化を実施
(5) 魅力あるまちづくりに関する取組み ① 北陸域内の地域経済の専門家とのネットワークづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・北陸地域政策研究フォーラムとの連携 ・会員大学研究者の活用（会員懇談会等での講演） 	<ul style="list-style-type: none"> ○北陸経済に関する情報交換会への参加（11/7） [構成メンバー] 日銀金沢支店、政投銀北陸支店、北陸財務局、北陸経済研究所、北陸電力、北経連 ○第9回北陸地域政策研究フォーラムの開催支援（3/9 富山大学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域経済研究者との連携を深め、ネットワークの構築を目指す
② PPP、PFI等民間活力の活用 (PPP:パブリック プライベート パートナーシップ) (PFI:プライベート ファイナンス イニシアティブ)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域プラットフォームへの参画 ・コンセッション方式（インフラ運営権の民間への売却）に関する勉強会開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会基盤整備委員会において勉強会「『愛知道路コンセッション(株)』が得た多くの知見と今後の展開」実施（12/6） ○検討会議体やセミナー等への参加 <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度 第1回いしかわ地域プラットフォーム（7/26） ・平成30年度 第2回とやま地域プラットフォーム（8/24） ・平成30年度 第1回ふくい地域プラットフォーム（10/29） ・ // 第2回ふくい地域プラットフォーム（2/21） ・富山市官民連携推進シンポジウム「価値を生み出すアセットマネジメントー地域創生アセットで地元へ活力をー」（2/8）（上記については当会HPにおいて開催案内掲載） 	<ul style="list-style-type: none"> ・三県のプラットフォーム動向フォローを継続
(6) エネルギーセキュリティ強化に向けた取組み ① 原子力、再生可能エネルギーの推進 ② 水素エネルギー、地熱、メタンハイドレート等の活用推進支援	<ul style="list-style-type: none"> ・政府要望への織込み ・経産局等への協力等（経産省事業等への後援、支援等） ・情報収集、自治体、エネルギー事業者等との情報交換等 ・政府要望への織込み ・経産局等への協力等（経産省事業等への後援、支援等） ・情報収集、自治体、エネルギー事業者等との情報交換等 	<ul style="list-style-type: none"> ○政府要望への織込み <ul style="list-style-type: none"> ・当会単独要望活動（7/25、26）、三経連要望活動（10/17）、西日本経済協議会要望活動（11/9）等において、電力の安定供給確保や「重要なベースロード電源」と位置付けられた原子力発電の迅速な安全確認と早期運転再開など、持続的な経済成長の実現に向けたエネルギー政策に関する要望を実施 ○懇談会等でのアピール <ul style="list-style-type: none"> ・経団連との懇談会（10/30：金沢）、北陸選出自民党国会議員との懇談会（11/13：東京）、中部・近畿経済産業局との懇談会（11/28）等でアピール 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在稼働している原子力発電所は9基（いずれもPWR）にとどまり、北陸電力では一部の電気料金を値上げするなどエネルギーコストの上昇が顕在化していることや、北海道胆振（いぶり）東部地震による全道停電にみられる原子力の停止リスクの顕在化を踏まえ、安全性が確認された原子力発電所の速やかな再稼働に関する要望を継続 ・エネルギーセキュリティ確保、温室効果ガス削減に向けた諸施策、国民負担の抑制等に関する要望を継続

アクションプラン実施項目	平成 30 年度事業計画	実施状況	評価・方向性
(7) 国等に対する提言機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 政府要望の取りまとめ方の一部見直し（規制緩和事項の織り込み、重点要望事項の明確化等） ・ 政府要望活動（政府要望WG取りまとめ、東京一極集中の打破等に向けた諸施策要望の検討、政府与党等訪問） ・ 国・3 県等の活動フォロー ・ 行政当局・政党との懇談会開催 	<p>○ 政府に対する北陸経済界からの要望書作成、要望の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ WGによる検討、取りまとめ（4/26、6/20） ・ 総合対策委員会（7/4）、常任理事会（7/9） ・ 政府、与党等に対する要望活動（7/25、26：東京） 〔要望先〕 自民党（二階幹事長、竹下総務会長（当時））、公明党（井上幹事長（当時））、関係省庁、北陸選出国會議員等に面談、提出 <p>○ 三経連要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三経連経済懇談会・決議（9/5：札幌での開催を予定していたが、北海道胆振（いぶり）東部地震発生のため中止） ・ 要望活動（10/17：東京） 〔要望先〕 麻生副総理、経産省（滝波政務官）、国交省（塚田副大臣）、農水省（吉川大臣） <p>○ 西日本経済協議会要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会員総会・決議（10/19：三重県志摩市） ・ 要望活動（11/9：東京） 〔要望先〕 自民党（岸田政調会長）、内閣府（平井大臣、山本大臣、舞立政務官）、財務省（麻生大臣）、経産省（磯崎副大臣）、国交省（塚田副大臣）、首相官邸（菅内閣官房長官） <p>○ 中部・近畿経済産業局との懇談会（11/28：金沢）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北陸新幹線の大阪までの早期全線整備の必要性をはじめ、産業振興、国際化促進、地域力向上、女性活躍推進などをテーマに意見交換を実施 <p>○ 北陸・近畿地方整備局、北陸信越・中部運輸局との懇談会（3/1：金沢）</p> <p>○ 北陸選出自民党国会議員との懇談会（11/13：東京）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北陸新幹線の大阪までの早期全線整備、金沢－敦賀間の工事費増加分の財源確保による敦賀開業時期の順守などを要望 ・ 国会議員からは、金沢－敦賀間の国費の増加を国交省・財務省に求めていくこと、財源検討のための正式機関の自民党政務調査会内での発足の動きなどについて確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 政府与党、国土交通省などの重要箇所に対して、北陸経済界からの意見・要望を直接伝えることができる貴重な機会として評価 ・ 今年度の要望項目に関する政府の各種施策への反映状況を確認し（2019 年春頃）、反映状況を踏まえた要望活動を継続（規制緩和事項に関する要望も継続実施） <p>・ 北陸経済界の意見・要望を国会議員に対して直接伝えることができる貴重な機会であり、今後も継続</p>
(8) その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「地域経済活性化に向けた連携協定」（協定先：日本経済団体連合会）の会員企業・大学へのPR、積極的な利用促進 ・ 50 周年記念事業の実施 ・ 「北陸近未来ビジョン」の検討 	<p>○ 経団連会員企業へ紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北陸の企業・大学の技術等を連携協定に基づき経団連会員企業へ紹介（マッチングの申し入れ） ・ * 昨年度より開始。現在までに 22 案件を申請 →このうち 14 件で面談に至る ・ * 第一回マッチングワークショップを経団連にて開催（12/7） （北陸の 1 行政・1 大学の取組と 3 企業の技術を経団連企業に紹介。45 件の個別面談実施） <p>○ 「Society5.0 for SDGs フォーラム in 北陸」の開催（3/4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経団連が提唱する新たな社会像「Society5.0 for SDGs」の普及を目的に、経団連・北経連主催にて富山で開催 <p>〔基調講演〕</p> <p>経団連 審議員会副議長（日本電信電話㈱会長） 篠原 弘道 氏 「Society5.0 ーともに創造する未来ー」</p> <p>〔北陸における取組事例紹介〕</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 金沢工業大学 SDGs 推進センター長 平本 督太郎 氏 (2) コマニー㈱ 常務執行役員 塚本 直文 氏 (3) 富山市 環境部環境政策課 課長代理 東福 光晴 氏 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北陸の企業や大学にとって経団連会員企業（一部上場の大手企業）と連携できる意義は大きく、引き続き会員企業、大学へのPRに注力 ・ 第一回マッチングワークショップは経団連および北経連からの参加者に好評であったことから、次年度についても開催の方向で検討 <p>・ 今年度と同様の先進的内容のフォーラム開催について検討</p>

アクションプラン実施項目	平成 30 年度事業計画	実施状況	評価・方向性
(8) その他	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域経済活性化に向けた連携協定」(協定先：日本経済団体連合会)の会員企業・大学へのPR、積極的な利用促進 ・50周年記念事業の実施 ・「北陸近未来ビジョン」の検討 	<p>○低炭素社会の形成に伴う環境ビジネス創出の支援〔関連組織：北陸環境共生会議〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北陸環境共生会議幹事会 (6/22、11/30) ・いしかわ環境フェア 2018 (8/25、26) ・とやま環境フェア 2018 (10/13、14) ・つるが環境フェア 2018 (12/8) ・北九州市エコタウン視察・北九州市との意見交換 (1/31～2/1) <p>○50周年記念式典の開催 (5/28 30年度総会にあわせて開催)</p> <p>(1) 記念式典</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長挨拶、来賓祝辞 (石井富山県知事、西川福井県知事) ・特別功労者表彰 <p>(2) 記念講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「県民幸福度研究の進化～全47都道府県幸福度ランキング (2018年版) 講師：(一財)日本総合研究所 所長 松岡 斉 氏 ・「世界の構造転換と日本―北陸への視界」 講師：(一財)日本総合研究所 会長 寺島 実郎 氏 <p>(3) 記念パーティー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長挨拶、来賓祝辞 (谷本石川県知事) 他 <p>○「北陸近未来ビジョン」の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベースシナリオ策定 (自然体での将来予測) ・希望する将来像に関するインタビュー実施 (大学生、生活者) ・「未来を語れる方」を招いての講演会および当会役員との座談会の実施 (12/19) (ビジョン検討にあたり、地方の将来を見据える上で考慮すべき観点等についてヒントをいただく) <講演会> {講師} (一財)日本経済研究所 専務理事(チーフエコノミスト) 鍋山 徹 氏 {演題} 「最新テクノロジーが拓く産業と地方のあるべき姿」 <座談会> {参加者} 日本経済研究所 鍋山専務理事、久和会長、稲垣副会長、鈴木理事 	<ul style="list-style-type: none"> ・3県と連携しながら継続実施 ・今後、50周年記念誌を発行 (2019年度上期中予定) ・「北陸近未来ビジョン」公表 (定期総会 (6/11)) ・「第五次中期アクションプラン」(2021～2025年度)策定に向けた準備 (基礎調査の実施) (第四次中期アクションプランの達成状況評価、第五次中期アクションプラン策定に向けた課題整理等) ・北陸の主要な経済指標のデータベース化と Web による揭示ならびに同データの定期メンテナンスに向けた検討 ・Industry4.0、自動運転の動向などに関する海外視察実施 [ドイツ] (5/4～5/12)

2018 年度事業計画の実施状況と評価・方向性（先端技術推進委員会）

アクションプラン実施項目	平成 30 年度事業計画	実施状況	評 価・方向性
<p>(1) 域内産業集積を活かしたものづくり拠点形成支援 ① ライフサイエンス産業の振興支援</p> <p>北陸ライフサイエンスクラスター事業の推進 [HIAC 実施(北経連支援)]</p>	<p>北陸ライフサイエンスクラスター形成事業、および生活習慣病の予防・改善を目的とした公的保険外サービス関連企業創出事業(経済産業省委託 地域中核企業創出支援事業)の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北経連のネットワークの活用等による情報提供 ・講演会、セミナーの開催に対する協力 ・その他ライフサイエンス分野の振興支援 (北海道経連との薬用植物連携会議 等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究報告会支援 [4/5 本委員会にて] 「北陸ライフサイエンスクラスター事業の成果報告」 ・北陸ライフサイエンスクラスターへ医工融合研究会(主催:金沢工業大学、共催:北経連)の情報を提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・北経連のネットワークを活かした北陸ライフサイエンスクラスターへの情報提供・ネットワーク拡充支援策の検討を進める。 ・地方大学・地域産業創生交付金対象事業「くすりのシリコンバレーTOYAMA」に対する動向把握、サポート
<p>② 高機能新素材産業の振興支援</p>	<p>高機能新素材(炭素繊維材料、マグネシウム・チタン等軽金属材料、ナノファイバー材料)等の開発・加工技術等について情報収集・発信を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各材料の最新情報を提供する講演会・セミナー開催 ・先端技術を擁する施設等の視察 	<ul style="list-style-type: none"> ・「北陸産業活性化フォーラム」の開催 (主催:HIAC、共催:北経連) 炭素繊維複合材料(CFRP)講演会 革新複合材料研究開発センター(ICC)施設見学 [11/30 金沢工業大学八東穂キャンパス 参加者 60 名] 	<ul style="list-style-type: none"> ・炭素繊維複合材料をはじめとした高機能新素材に関する最新動向情報を継続して提供する。
<p>(2) 新規事業創出、産業高度化、付加価値向上のための産学官連携支援 ① 研究会等による推進</p>	<p>各分野において関係各所と連携し、最新情報・動向や意見交換の場の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「次世代ロボット研究会・北陸」の開催 ・「高信頼システム情報交換会」の開催 ・北陸情報通信協議会(北陸総合通信局)との連携・協力 ・医工融合研究会への支援 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代ロボット研究会 「次世代モビリティ講演会」[6/18 金沢市 参加者 70 名] 講師:WHILL(株)CTO 兼代表取締役 福岡宗明氏 パナソニック(株)東京オリンピック・パラリンピック推進本部営業推進部長 安藤一郎氏 講演会後、講師との意見交換会実施 (久和会長、水口先端委員長ほか参加) ・北陸情報通信協議会(北陸総合通信局)との連携 (「高信頼システム情報交換会」メンバーにも案内) 発表会「北陸まちづくりトライアルコンクールイベント」 [6/8 金沢市 参加者 70 名] (主催:北陸総合通信局、後援:北経連) 講演会「5Gが創る未来」[6/13 富山市 参加者 80 名] (主催:北陸総合通信局、後援:北経連) 講演会「地域 ICT/IoT 実装推進セミナー in 富山」 [7/9 富山市 参加者 130 名] (主催:北陸総合通信局、後援:北経連) 講演会「働き方改革セミナー(テレワーク推進)」 [10/17 金沢市 参加者 60 名] (主催:北陸総合通信局、後援:北経連) 講演会「地域 ICT/IoT 実装推進セミナー in 福井」 [11/5 福井市 参加者 50 名] (主催:北陸総合通信局、後援:北経連) 発表会「北陸イノベーショントライアル 2018」 [11/6 金沢市 参加者 80 名] (主催:HIT2018 実行委員会、後援:北経連) 講演会「北陸地域 ICT イノベーションセミナー」 [12/11 金沢市 参加者 80 名] (主催:北陸総合通信局、後援:北経連) 「5G 利活用アイデアコンテスト」 [12/13 金沢市] (主催:北陸総合通信局、北経連:審査員として参加) 講演会「5G がつくる未来セミナー」 [12/14 福井市 参加者 110 名] (主催:北陸総合通信局、後援:北経連) 講習会「工場向けワイヤレス IoT 講習会」 [12/21 富山市 参加者 30 名] (主催:北陸総合通信局、後援:北経連) 	<ul style="list-style-type: none"> ・北陸の産業活性化を目的にした大学との連携プロジェクト等を支援していく。 HIAC が取り組む「北陸地域における工作機械を中心とした先端ものづくり産業の国際競争力強化」事業に対する協力 ・IoT、ICT 技術の活用について北陸情報通信協議会等と協力して最新の情報を提供することができた。 ・「第4次産業革命」や「Society5.0」など超スマート社会への移行に対応するため、その要素となる「ロボット」、「自動運転」、「人工知能」、「IoT」などの先端技術分野の最新情報を提供するとともに、研究者や企業関係者のネットワーク拡大を支援する。

アクションプラン実施項目	平成30年度事業計画	実施状況	評価・方向性
		<p>説明会「IoT時代における電波利用の先進技術と安全性に関する説明会」 [3/5 金沢市 参加者110名] (主催：北陸総合通信局、後援：北経連) 講演会「IoT導入セミナーin富山」 [3/7 富山市 参加者30名] (主催：北陸総合通信局、後援：北経連)</p> <p>・医工融合研究会(金沢工業大学主催、北経連等共催) 医療・介護機材等の開発研究に関するメンバーシップ100団体間(大学・企業)の情報収集や技術交流を支援 [研究会開催 6/8、8/3、11/16、2/23]</p>	<p>・研究会等の活動は医工連携に関わる情報共有の機会となり、今後の連携拡大が期待される。 ・研究会のネットワーク拡大を支援していく。</p> <p>《参考：総合対策委員会所管》 H30年度産学連携懇談会(8/1)において、「産学連携によるイノベーションの推進」をテーマに懇談。 また3/18金沢市において、「北陸地域が一体となった産学連携の強化策を考える」をテーマに主要な企業・大学・金融機関の産学連携担当部門の責任者40名による産学連携交流会を開催。</p> <p>↓ 今後も関係者による情報共有の場を継続する。</p>
<p>②技術アドバイス・コーディネート活動 [HIAC実施(北経連支援)]</p>	<p>・各種交流の場を通して得られた大学の研究シーズや企業のニーズを産官学連携コーディネータ(HIAC)に橋渡しすることにより、産学金官連携による事業展開やマッチング等を支援 ・公的支援事業や補助金制度情報の入手及び関連組織・企業への情報提供</p>	<p>《参考：総合対策委員会所管》 経団連との「地域経済活性化に向けた連携協定」(総合対策委員会所管)に基づく経団連企業への紹介(マッチング申入れ) ・昨年度より開始、現在までに22案件を申請(うち14件面談) ・経団連企業を対象に第1回マッチングワークショップ開催(北陸の3企業、1大学、1行政の取組との技術を経団連企業に紹介。45件の個別面談が行われた。) [12/7 経団連会館]</p>	<p>・北経連のネットワークの中で得た大学の研究シーズや企業のニーズ情報を適宜HIACへ橋渡ししていく。 ・左記「連携協定」を活かした首都圏企業との連携推進をフォロー。</p>
<p>③北陸地域ものづくり展示会への支援</p>	<p>・北陸技術交流テクノフェアやマッチングハブ金沢など地域の展示会開催に対する協力</p>	<p>展示会への出展 「北陸技術交流テクノフェア」[10/25～26 福井市 来場18千名] 主催：技術交流テクノフェア実行委員会(北経連は実行委員) ・北経連ブースにて、ロボット研究会会員大学研究室の研究内容を展示・解説 金沢工大：チェアスキーのシミュレータ開発 筋電位信号で動くロボットハンド 福井工大：リハビリテーション性能を重視した新型歩行器 ゲームとエルゴメータとの連動による介護予防運動の促進</p> <p>「Matching HUB Kanazawa 2018」 [11/1～11/2 金沢市] 共催：北陸先端科学技術大学院大学・中小機構・産総研、 後援：北経連 等 ・産業振興の取組みや「北陸のシェアトップ150」などをPR</p>	<p>・各大学の研究室の先生や学生が展示内容を説明した。多くのブース来場者があり、盛況であった。 ・各大学の次世代ロボット研究会参加メンバー等の研究内容を企業等にPRでき、今後の企業との連携が期待される。 ・「北陸技術交流テクノフェア」[10/24～25]、「Matching HUB」への協力を継続する。 ・「富山県ものづくり総合見本市」[10/31～11/2]に対する協力も検討する。</p>
<p>(3)新技術等の活用による産業振興支援 ①講演会、セミナー等による事例紹介、啓発</p>	<p>・最新技術に精通した講師による講演会、セミナー等を開催し、時宜を得た情報提供・事例紹介を実施(例：IoT、AI、自動運転) ・紹介冊子「北陸のシェアトップ150」の積極的な有効活用</p>	<p>講演会「AIへの取り組みとIBM Watsonの活用例」 [12/10 金沢市] 講師：日本IBMソフトウェア&システム開発研究所長 岡田啓一氏 (人工知能(AI)の開発経緯、応用事例について講演)</p> <p>「北陸のシェアトップ150」の発行 [4/6] 掲載品目を155品目に拡大、AR機能を付加した「北陸のシェアトップ150」を発行。各種懇談会、講演会、展示会等において配布・PR(3月末配布部数2,650冊)</p>	<p>・IoT、ビッグデータ、人工知能の分野においては技術革新が急速に進展しており、関連産業を含めて引き続き最新情報を提供していく。 <最近の講演会> SAP(「ザ・インソキング」) グーグル(人工知能) 富士通(スマート農業) パナソニック(ICT、IoT)</p> <p>・「北陸のシェアトップ150」を機会あるごとに配布・説明し、北陸地方の企業・産業状況の積極的なPR活動を展開していく。</p>

アクションプラン実施項目	平成30年度事業計画	実施状況	評価・方向性
②大学・企業の視察会、最新技術の紹介	<ul style="list-style-type: none"> 大学の研究施設や企業の先端施設の視察会等を実施し、最新技術を紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 大学見学会開催（総合対策委員会と共催） 福井大学文京キャンパスにて実施 [8/1] 参加：久和会長、水口委員長ほか約20名 ・真弓学長による大学の取組みの概要説明 ・国際地域学部紹介、主要研究4テーマの紹介 ・遠赤外領域開発研究センター、産学官連携本部を見学 「Toyama Academic GALA」への参加協力 [9/14 富山大杉谷キャンパス] (主催：富山大学 後援：北経連等) 	<ul style="list-style-type: none"> 大学見学会はこれまで北陸先端大、金沢工大、金沢大、富山大、福井大で実施 企業と大学が活動や施設の内容を知る機会となり、今後の産学連携の進展が期待される。 今後もその他の大学および企業・自治体等の先進施設の視察会や、大学行事等に積極的に協力していく。
③ベンチャー振興支援	<ul style="list-style-type: none"> 北陸内外のベンチャー動向について情報収集を実施し、シリコンバレー視察も踏まえたベンチャー振興に関する提言をまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ベンチャーに関する講演会の開催 次世代モビリティ講演会 [6/18 金沢市 参加者 70名] 講師：WHILL(株)CTO 兼代表取締役 福岡宗明氏 「北陸地域のベンチャー振興について」をテーマにした会員懇談会の開催 富山会員懇談会 [9/26 参加者 100名] 講師：KDDI(株)ライフデザイン事業本部 ライフデザイン 事業企画本部 ビジネスイノベーション推進部長 中馬和彦氏 (公財)富山県新世紀産業機構中小企業支援センター サブマネージャー 浅井修平氏 (株)笑農和 代表取締役 下村豪徳氏 (株)オズリンクス 代表取締役 原井紗友里氏 (株)TOPUバイオ研究所 取締役 榊利之氏 福井会員懇談会 [11/21 参加者 60名] 講師：(一社)シェアリングエコノミー協会理事 甲田恵子氏 (公財)ふくい産業支援センター 販路開拓支援部主査 岡田留理氏 (株)フィッシュパス 代表取締役 西村成弘氏 (株)ドラフト 代表取締役 CEO 伊藤佑樹氏 石川会員懇談会 [3/6 参加者 80名] 講師：慶応義塾大学 先端生命科学研究所所長 富田勝氏 北陸財務局 総務管理官 柳町勝彦氏 (公財)石川県産業創出支援機構 櫻井邦彦氏 (株)バイオセラピー 代表取締役 豊田剛史氏 (株)キュービクス 代表取締役社長 丹野博氏 	<ul style="list-style-type: none"> 講演会、会員懇談会を通じて、国内のベンチャー企業、支援する大企業の動向を情報収集、会員へ提供できた。 また、北陸地域のベンチャー支援組織および実際に起業しているベンチャー企業の活動を把握・紹介できた。 登壇したベンチャー企業と会員企業との協力の実績ができた。 上記活動から得られた情報、知見をもとに、ベンチャー振興のための提案を整理・公表する。 北陸型のベンチャーエコシステムの構築を目指して、今後もベンチャー動向などを調査・情報発信していく。 地方でのベンチャー振興事例として、慶應大学先端生命科学研究所、スパイバー社、ヒューマンメタボロームテクノロジー社（山形県鶴岡市）の視察を実施予定。
(4) 企業の人材育成支援 ①講演会、セミナー等による事例紹介、啓発	<ul style="list-style-type: none"> 業務能力向上を支援 (テーマ：デザイン、サイバーセキュリティ、知的財産 等) 	<ul style="list-style-type: none"> セミナー「北陸地域における先端ものづくり産業のIoT化・AI導入の可能性」の開催協力 [1/22 金沢市 参加者 130名] (主催：経産省北陸支局 後援：北経連 事務局：HIAC) 「ビジネスを衛るサイバーセキュリティセミナー」の開催協力 [2/6～7 金沢市 延べ参加者 140名] (主催：北陸総合通信局、共催：北経連) 	<ul style="list-style-type: none"> 実務担当者向けの業務能力アップ講習会等を企画していく。
(5) 企業誘致等 ①域外企業の本社機能移転の促進支援 ②研究機関等政府関係機関の誘致支援	<ul style="list-style-type: none"> 首都圏、及び中京または関西圏における大規模展示会に出展し北陸の企業立地環境(本社機能を含む)のPRを実施 北陸3県等の誘致要望内容を情報収集 国への政策提言・要望に反映 	<ul style="list-style-type: none"> 大規模展示会等への出展PR 「企業立地フェア」[5/15～18 東京ビックサイト 来場者 2千人] ブースへの来場者アンケート実施：83件 「メッセナゴヤ2018」[11/7～10 名古屋市 来場者 62千人] ブースへの来場者アンケート実施：364件 「メディカルジャパン2019」[2/20～22 大阪市 来場者 30千人] ブースへの来場者アンケート実施：162件 政府に対する要望書に「政府機関の地方移転に資する施策拡充」項目を掲げ、要請活動実施 [7/24] 	<ul style="list-style-type: none"> ものづくり企業が多く集まる展示会において、北陸の企業立地環境をPRし、アンケートによる情報収集ができた。 首都圏、及び中京または関西圏における大規模展示会に出展し北陸の企業立地環境(本社・研究機能を含む)のPRを実施。
(6) 6次産業化に資する農林水産業との連携	<ul style="list-style-type: none"> スマート農業に取り組む企業や大学研究者、行政と連携し、農業生産・流通分野における先進的事例等の情報収集・提供 	<ul style="list-style-type: none"> 講演会「スマート農業による農工商連携の可能性」 [3/13 金沢市 参加者 40名] 講師：農業ジャーナリスト 窪田新之助氏 石川県立大学 教授 瀧本裕士氏 	<ul style="list-style-type: none"> 会員のニーズを把握し今後の取り組みを検討する。

2018 年度事業計画の実施状況と評価・方向性（社会基盤整備委員会）

アクションプラン実施項目	平成 30 年度事業計画	実施状況	評 価・方向性																					
<p>(1) 広域社会基盤整備の推進</p> <p>① 関東、関西および中部との交流促進のためのアクセスの向上</p> <p>・北陸新幹線の敦賀までの早期開業</p> <p>・フル規格での大阪までの延伸</p>	<p>・北陸三県等と連携した政府、与党等に対する、早期開業に向けた要望活動。</p> <p>・大阪までの 2030 年頃までの一日も早い開業に向け、北陸三県・関西経済連合会等と連携した政府・与党等に対する要望活動実施。</p>	<p>○政府・与党等に対する要望活動実施</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">日程</th> <th style="width: 50%;">活動内容</th> <th style="width: 40%;">当会出席者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5/22</td> <td>(北陸新幹線建設促進大会・総会) 北陸新幹線建設促進同盟会中央要請</td> <td>会長、川田副会長、高木副会長、安宅副会長</td> </tr> <tr> <td>7/25</td> <td>政府要望</td> <td>会長、浅野常任理事、森田理事、向金沢大学副学長 他</td> </tr> <tr> <td>10/17</td> <td>三経連要望活動</td> <td>会長、専務理事 他</td> </tr> <tr> <td>11/9</td> <td>西経協要望活動</td> <td>会長、専務理事 他</td> </tr> <tr> <td>11/13</td> <td>北陸新幹線建設促進同盟会中央要請</td> <td>会長、菱沼副会長 他</td> </tr> <tr> <td>11/13</td> <td>予算税制政策懇談会(自民党)</td> <td>専務理事</td> </tr> </tbody> </table> <p>⇒各要請や経団連との懇談会(10/30)、整備局・運輸局との懇談会(3/1)等のあらゆる機会を捉えて、金沢・敦賀間の 2022 年度末までの確実な開業実現、敦賀・新大阪間における 2030 年頃までの一日も早い全線整備、中京圏へのアクセス向上等についてアピール。</p>	日程	活動内容	当会出席者	5/22	(北陸新幹線建設促進大会・総会) 北陸新幹線建設促進同盟会中央要請	会長、川田副会長、高木副会長、安宅副会長	7/25	政府要望	会長、浅野常任理事、森田理事、向金沢大学副学長 他	10/17	三経連要望活動	会長、専務理事 他	11/9	西経協要望活動	会長、専務理事 他	11/13	北陸新幹線建設促進同盟会中央要請	会長、菱沼副会長 他	11/13	予算税制政策懇談会(自民党)	専務理事	<p>○要望活動継続実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北陸三県や関西経済界との連携による北陸新幹線金沢・敦賀間の 2022 年度末までの確実な開業に向けた取り組み ・敦賀開業後の中京圏へのアクセス維持向上 敦賀駅での乗換利便性、在来線特急本数維持 等 ・並行在来線への支援 利用者利便性向上、地元負担の軽減 等 <p>○大阪までの 2030 年ごろまでの一日も早い開業に向け要望活動実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敦賀・新大阪間における環境アセスメントの迅速化による 2022 年度中の工事認可・着工の実現と 2030 年頃までの一日も早い大阪までの全線開業に向けた活動 ・中京圏への在来線特急の運行本数の維持・拡大などによるアクセス確保
		日程	活動内容	当会出席者																				
5/22	(北陸新幹線建設促進大会・総会) 北陸新幹線建設促進同盟会中央要請	会長、川田副会長、高木副会長、安宅副会長																						
7/25	政府要望	会長、浅野常任理事、森田理事、向金沢大学副学長 他																						
10/17	三経連要望活動	会長、専務理事 他																						
11/9	西経協要望活動	会長、専務理事 他																						
11/13	北陸新幹線建設促進同盟会中央要請	会長、菱沼副会長 他																						
11/13	予算税制政策懇談会(自民党)	専務理事																						
<p>○北陸新幹線の最近の動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12/10 <u>北陸新幹線整備 PT</u> 初会合が開催され、北陸新幹線敦賀-新大阪の建設財源について、今後 1 年をめどに一定の結論を出すとの方針を示した。また用地の先行取得、敦賀開業後即着工することについて、国交省も交えて意見が交わされた。 ・12/11 <u>与党 PT</u> 北陸・九州両新幹線の建設費増加分(3,451 億円)についての財源について、既設新幹線の譲渡収入の活用を含む国費の増額や将来の貸付料収入の前借り分を財投にて借り換えたことにより生じた余剰資金の利用等が検討され、申し入れ書が取りまとめられた。 ・12/18 <u>与党 PT</u> 国費の増額(755 億円⇒792 億円)、既設新幹線の譲渡収入(650 億円)の利用、財投による借り換えにより生じた余剰資金(1,729 億円)の利用により、工事費増加分を補うことが PT 内で了承された。 ・12/21 2019 年度予算案が閣議決定され、北陸新幹線には 2,638 億円、新大阪への延伸に向けた環境アセス等の調査費に 12 億円が計上された。 ・3/2 <u>北陸新幹線整備 PT</u> 大阪で開催され、敦賀以西の関係自治体・関係団体へのヒアリングが行われた。大阪府からは大阪府を中心とした協議会の設立についての報告があった。 		<p>○調査研究</p> <p>「北陸新幹線全線開業前倒しに係る経済波及効果」 関経連との共同調査 →国交省からの「全国幹線旅客純流動調査」データの公表待ち。</p>	<p>○大阪までの全線開業前倒しに係る調査研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国交省よりデータ公表(3月下旬公表予定)後、即座に調査開始し、速やかに公表を行う。 ・調査内容を踏まえ、関経連等と協調して今後の大阪早期開業に向けての機運醸成を図る。 																					
	<p>・関経連との共同調査研究 北陸新幹線全線開業前倒しに係る経済波及効果 *関西経済連合会、大阪商工会議所との共同研究</p> <p>・関西地域と連携した現地での北陸新幹線 PR 活動</p>	<p>○関西経済界との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財源検討 WG の実施 関経連主催。敦賀以西の沿線自治体・経済界で財源に関して情報共有・意見交換を行う。 第 1 回(6/14、福井県開催)、福井県、関経連、北経連 第 2 回(9/13、京都府開催)、大阪府、京都府、福井県、関西広域連合、関経連、北経連 第 3 回(12/18、大阪府開催) 12/3 関西北陸交流会(JR 西主催) 関西経済界からは関経連・大阪商工会議所・関西経済同友会等 2/7,8 関西財界セミナー(関経連・関西経済同友会共催) 2/14 グランフロント大阪での北陸新幹線 PR 活動 (北陸新幹線建設促進同盟会、関経連と共催) 	<p>○関西経済界との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記共同調査をはじめ、要望活動や関西での機運醸成を図るイベント等にて連携を継続。 ・広域観光推進委員会と連携したイベント等の実施。 																					

アクションプラン実施項目	平成30年度事業計画	実施状況	評価・方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴールデンループの周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光推進のみならず、大規模災害時の国土代替補完機能、広域経済圏形成に資するゴールデンループをアピール。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ゴールデンループ ⇒インバウンド需要のみならず、東海道新幹線の代替機能としての役割を、各要請や懇談会等にてアピール実施。 ・ 名刺の裏面への掲載、会議等でのPRチラシ配布の継続 ・ 「週刊ホテルレストラン(石川県特集)」掲載(9/7) ・ 「ディスカバリー北陸プロジェクト」新聞掲載(11/21) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ゴールデンループについて、広域観光推進および企業誘致分野と連携し、PR継続。
<ul style="list-style-type: none"> ② 陸・海・空一体となった人流・物流基盤の整備促進 ・ 太平洋側での巨大災害発生時に実質的な代替機能を持つ物流ネットワークの整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「北陸地域国際物流戦略チーム広域バックアップ専門部会」への参画 ・ スマートロジスティクス、最新のインフラ建設技術に関する情報収集、勉強会等の実施 ・ 防災・減災への取組み 太平洋側代替機能としての役割 北陸地域における防災・減災への勉強会 「国土強靱化税制」実現など、広域的な取組み実施 <div data-bbox="430 619 1329 865" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>*スマートロジスティクス……IT・データ利活用を通じた物流分野の効率化・高度化(倉庫・車両の自動化・無人化、AIを利活用した管理システム等)</p> <p>*南海トラフ巨大地震…フィリピン海プレートとアムールプレートとのプレート境界の沈み込み帯である南海トラフ沿いが震源域と考えられている巨大地震。南海トラフでは約100～200年の間隔で蓄積されたひずみを解放する大地震が発生しており、今後30年以内に70%～80%の確率で発生するといわれている。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 会合出席 11/13「南海トラフ巨大地震に対応した代替輸送訓練」図上訓練 ・ 北陸および東海地区の行政、荷主企業等約100名が参加 ○ 要望活動実施 7/25「政府に対する北陸経済界からの要望書」を与党・関係省庁に提出 ・ 「物流分野における労働力不足等に対応するための新技術等の導入促進(スマートロジスティクスの推進)」 ○ 国土強靱化税制 ・ 国土強靱化税制の整備・創設に向け、8地域経済連合会(北海道、東北、北陸、中部、関西、中国、九州)にて、本制度への賛同署名を募集(2017/9/28～)2018年8月時点で123,437筆 8/27 自民党『「国土強靱化税制」整備・創設を支援する議員懇談会』第一回会合での要望(8地域経済連合会) 菅義偉内閣官房長官、西村康稔内閣官房副長官へ要望活動 11/9 西経協要望活動にて菅官房長官ほかへ要望 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「広域バックアップ専門部会」の活動(代替輸送訓練含む)への参画を継続 ○ 要望活動継続実施 ○ 物流に関する情報収集・勉強会等の継続実施 AI・IoT等の先端技術を利用したスマートロジスティクスや最新のインフラ建設技術等に関する情報収集、勉強会等の実施等 【防災・減災について】 ・ 国土強靱化税制 平成31年度税制改正の大綱に「防災・減災設備への投資に係る特別償却制度を創設する」として盛り込まれた。 ・ 重要物流道路 物流の基幹道路として、災害時に国が優先的に復旧に当たる道路。全国の約3万5千キロを近く指定される。具体的な区間は、地元自治体との協議を経て3月末に公表予定。 ・ 雪害対策 国道8号における監視カメラとAIを使ったシステム、チェーン規制により立ち往生を未然に防ぐための対策が講じられた。 <p>⇒防災・減災に対する情報収集等の継続実施</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高規格幹線道路の4車線化、ミッシングリンクの解消 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主催行事や三経連・西日本経済協議会等での国交省等に対する、代替補完機能等をアピールする要望活動、NEXCO中日本との情報連携 ・ 事故・渋滞削減に資する地域高規格道路の整備促進 <div data-bbox="430 1396 1329 1780" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○東海北陸自動車道 白鳥IC～飛騨清見IC間の4車線化が完了 ○2019年度は「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」の一環として、財投1兆円を利用することで生じる余剰資金約7,000億円を使い、高速道路暫定2車線区間の4車線化及び新名神高速道路亀山西JCT-大津JCT間の6車線化が行われる。 ・ 2019年度の高規格道路4車線化計画(総額約4,400億円)にて対象となる北陸の区間 東海北陸自動車道…五箇山IC-白川郷ICのうち約2.8km 舞鶴若狭自動車道…小浜西IC-大飯高浜ICのうち約7.8km 大飯高浜IC-舞鶴東ICのうち約4.1km</p> <p>⇒2019年夏ごろに追加対象区間が公表される予定</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 会合・総会出席 7/3 東海北陸自動車道全線開通10周年記念シンポジウム 8/20 東海北陸自動車建設促進同盟会・東海環状道路建設促進期成同盟会平成30年度合同定期総会・整備促進大会 2/13 東海北陸自動車道全線四車線化総決起大会 ○ 北陸三県との連携 ・ 富山県土木部を窓口以北陸三県と連携し、各県で取り組む地域高規格道路(国道8号線等)の安全性確保・渋滞削減に資する整備事業(連続立体交差事業等)の推進に関する要望事項を追加。 ○ 要望活動実施 7/25「政府に対する北陸経済界からの要望書」を与党・関係省庁に提出 ○ その他 12/6 社会基盤整備委員会において勉強会「『愛知道路コンセッション(株)』が得た多くの知見と今後の展開」実施 講師：愛知道路コンセッション(株)代表取締役社長 前田建設工業(株)執行役員事業戦略本部 東山基氏 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 要望活動継続実施 ・ 未開通部解消および4車線化の早期着手・整備促進[未開通区間] 能越自動車道：田鶴浜-病院西IC 中部縦貫自動車道 [4車線化未着手区間]※2019年度着手区間を除く 東海北陸自動車道：飛騨清見IC-小矢部砺波IC 舞鶴若狭自動車道：舞鶴西-敦賀JCT ・ 主要国道などにおいても、安全かつスムーズな交通の実現を要望 ○ 引き続き、NEXCO中日本との情報連携を図る ・ 勉強会等の実施

アクションプラン実施項目	平成30年度事業計画	実施状況	評価・方向性																																																		
<p>・北極海航路等利用拡大に対応する日本海港湾拠点の国際化</p>	<p>・整備促進に向けた北陸三県、他経済団体等との連携（政府への要望活動の実施等） *クルーズ船誘致に向けた港湾整備 *関税・入国管理・検疫(CIQ)対応の迅速化 等 ・東海地区での北陸港湾ポートセールスの実施 *北陸港湾の利用拡大を荷主企業等へPR</p>	<p>○要望活動実施 7/25「政府に対する北陸経済界からの要望書」を与党・関係省庁に提出</p> <p>○代替輸送訓練（図上訓練）参加者との懇親情報交換会 11/13「南海トラフ巨大地震に対応した代替輸送訓練」実施後に情報交換会開催し、北陸3県の港湾関係者が東海地区の参加企業に対して北陸港湾の利用拡大をPR。</p>	<p>○要望活動継続実施 ・太平洋側代替機能を意識した港湾整備 ○情報交換会出席者と情報共有、意見交換およびポートセールスの場としてPR継続実施</p> <p>【参考情報】 ・クルーズ船の寄港実績</p> <table border="1" data-bbox="2487 268 2881 369"> <thead> <tr> <th>港湾名</th> <th>平成28年</th> <th>平成29年</th> <th>平成30年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伏木富山</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>金沢</td> <td>30</td> <td>53</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>敦賀</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> <p>・2018年寄港クルーズ船の最大総トン数 伏木富山・・・137,936トン（乗客定員3,274人） 金沢・・・137,936トン（乗客定員3,274人） 敦賀・・・115,875トン（乗客定員2,706人）</p>	港湾名	平成28年	平成29年	平成30年	伏木富山	5	5	8	金沢	30	53	47	敦賀	4	5	5																																		
港湾名	平成28年	平成29年	平成30年																																																		
伏木富山	5	5	8																																																		
金沢	30	53	47																																																		
敦賀	4	5	5																																																		
<p>・北陸地域内2次交通ネットワークの利便性の向上</p>	<p>・整備促進に向けた北陸三県、他経済団体等との連携（政府への要望活動の実施、利便性向上に向けたバス・私鉄事業者との連携等） ・各県並行在来線利用促進協議会等への参加</p>	<p>○要望活動実施 7/25「政府に対する北陸経済界からの要望書」を与党・関係省庁に提出</p> <p>○協議会等参加 5/31 福井県並行在来線対策協議会幹事会 6/8 あいの風とやま鉄道利用促進協議会幹事会 6/14 あいの風とやま鉄道利用促進協議会 8/2 福井県並行在来線対策協議会 12/7 あいの風とやま鉄道利用促進協議会幹事会 12/20 あいの風とやま鉄道利用促進協議会 2/20 あいの風とやま鉄道利用促進協議会WG</p>	<p>○要望活動継続実施 ・地域利便性を確保するため、三セク会社への国による支援、JRからの運営および設備投資に関する協力支援確保。</p> <p>○次世代モビリティ・MaaS等の先端技術・サービスの二次交通への活用可能性について情報収集及び勉強会の実施</p> <p>○バス・私鉄事業者との情報連携</p>																																																		
<p>・北陸地域内空港の活性化（LCCの誘致、プライベートジェットの受け入れ推進等）</p>	<p>・活性化に向けた行政、他経済団体等との連携によるPR（政府要望活動の実施、利便性向上の航空会社との連携等） *富山、能登、小松空港の便数維持、乗り継ぎ割引の拡大 *国際便接続の利便性向上による羽田・成田空港の利活用の促進 *域内空港間の国内外路線の重複日程、時間帯の是正による回遊性の確保 等 ・羽田空港でのイベント等を通じ北陸地域の空港と羽田間の利用促進PR</p>	<p>○要望活動実施 7/25「政府に対する北陸経済界からの要望書」を与党・関係省庁に提出</p> <p>○羽田空港のイベントの実施 2/1,2 京急との連携イベント（羽田空港） 羽田空港国内線第1旅客ターミナルにおいて、京急電鉄と連携して、北陸誘客促進および北陸の3空港（富山きときと空港、のと里山空港、小松空港）の羽田便の利用促進イベント実施。</p>	<p>○要望活動継続実施 ・インバウンドを含む国内乗継の利用促進、国内・国際線着陸料の軽減措置の拡充 ・国際線の新規就航等経費支援への拡充</p> <p>○航空会社との情報連携</p> <p>【参考情報】 ○小松空港の利用者数（単位：千人）</p> <table border="1" data-bbox="2199 1213 2875 1352"> <thead> <tr> <th></th> <th>2014年度</th> <th>2015年度</th> <th>2016年度</th> <th>2017年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国内線</td> <td>2,126</td> <td>1,509</td> <td>1,491</td> <td>1,509</td> </tr> <tr> <td>国際線</td> <td>188</td> <td>182</td> <td>194</td> <td>202</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2,314</td> <td>1,692</td> <td>1,686</td> <td>1,712</td> </tr> </tbody> </table> <p>○富山空港の利用者数（単位：千人）</p> <table border="1" data-bbox="2199 1415 2875 1554"> <thead> <tr> <th></th> <th>2014年度</th> <th>2015年度</th> <th>2016年度</th> <th>2017年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国内線</td> <td>885</td> <td>559</td> <td>461</td> <td>445</td> </tr> <tr> <td>国際線</td> <td>101</td> <td>115</td> <td>103</td> <td>118</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>987</td> <td>674</td> <td>564</td> <td>563</td> </tr> </tbody> </table> <p>○のと里山空港の利用者数（単位：千人、7/7～翌年7/6の数値）</p> <table border="1" data-bbox="2199 1617 2875 1688"> <thead> <tr> <th></th> <th>2014年</th> <th>2015年</th> <th>2016年</th> <th>2017年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>150</td> <td>152</td> <td>157</td> <td>162</td> </tr> </tbody> </table>		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	国内線	2,126	1,509	1,491	1,509	国際線	188	182	194	202	合計	2,314	1,692	1,686	1,712		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	国内線	885	559	461	445	国際線	101	115	103	118	合計	987	674	564	563		2014年	2015年	2016年	2017年	合計	150	152	157	162
	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度																																																	
国内線	2,126	1,509	1,491	1,509																																																	
国際線	188	182	194	202																																																	
合計	2,314	1,692	1,686	1,712																																																	
	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度																																																	
国内線	885	559	461	445																																																	
国際線	101	115	103	118																																																	
合計	987	674	564	563																																																	
	2014年	2015年	2016年	2017年																																																	
合計	150	152	157	162																																																	

2018 年度事業計画の実施状況と評価・方向性（国際交流推進委員会）

アクションプラン実施項目	2018 年度事業計画	実施状況	評価・方向性
<p>1) 北陸地域・企業の国際化のあり方・方向性の提言</p> <p>① 経済活性化に資する企業の国際化に関する調査研究</p> <p>② 大学・研究機関との連携強化</p>	<p>○北陸企業の外国人材の採用・活用に向けた調査研究の実施 (調査内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度外国人材のグローバル化 ・我が国の外国人材活用支援施策 ・北陸(日本)企業外国人材受入れ、活用状況 ・外国人材採用、育成、定着の課題 <p>(調査体制)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北陸 AJEC とジェトロとの連携研究 (研究会を年 5~6 回開催) <p>(調査期間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1.5 年程度 1 年目~2 年目前半: 調査、執筆、取り纏め 2 年目: 調査結果を踏まえたシンポジウム開催(ジェトロと共催) 	<p>○北陸企業の外国人材の採用・活用に向けた調査研究の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6 月 13 日 第 1 回調査会開催(金沢) 報告書構成、執筆分担 ・9 月 20 日 第 2 回調査会開催(東京) 調査分担の進捗状況説明・意見交換 ・10 月 15 日~17 日 北陸 4 国立大学(富山大、金沢大、先端科技大、福井大) 留学生支援部門訪問。留学生アンケート実施依頼及び就職状況等ヒアリング ・11 月 16 日 朝日印刷(株)、YKK(株)訪問。外国人材採用・活用等ヒアリング ・11 月 28 日~1 月 4 日 上記 4 大学の学部 3・4 年生、大学院生(修士・博士)を対象に就職意識アンケート調査を実施。対象者数 1,532 名、回答者 238 名 ・12 月 20 日 第 3 回調査会開催(東京) 調査分担箇所プレゼン、今後のスケジュール ・1 月 11 日 高松機械工業(株)訪問。外国人材採用・活用等ヒアリング ・1 月 29 日 第 4 回調査会開催(東京) 初稿プレゼン、今後のスケジュール ・2 月 9 日 日華化学(株)、小野谷機工(株)訪問。 外国人材採用・活用等ヒアリング ・3 月 19 日 報告書発行 <p>○北陸企業の外国人材の採用・活用セミナーの開催</p> <p>日 時: 3 月 26 日 場 所: 金沢市 テーマ: 北陸企業の外国人材の採用・活用セミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演 演 題: 「人手不足の現状及び外国人材活用関連施策について」 講 師: 中部経済産業局 地域人材政策室長 片桐祐子氏 ・講演 演 題: 「外国人留学生は日本での就職に際し企業に何を望んでいるか」 講 師: 立命館アジア太平洋大学 副学長 横山研治氏 ・調査報告 演 題: 「高度外国人材と新在留資格制度の活用に向けて」 講 師: 北陸 AJEC 企画部会 委員長 丸屋豊二郎氏 松井グローバル合同会社 代表 松井和久氏 <p>・参加者: 100 名</p> <p>・主催: 北陸経済連合会、北陸 AJEC、日本貿易振興機構(ジェトロ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調査報告書の年度内発行に向けて、調査会を 4 回開催。 ・調査会のメンバーと共に外国人材の供給側の大学と需要側の企業を訪問した。 ・大学訪問では、留学生アンケート実施の依頼と留学生の在籍状況、国内・北陸企業への就職状況等をヒアリングした。 ・企業訪問では、技能実習生、国内・北陸域内大学卒業生の採用状況、外国人材の活用に対する考え方等をヒアリングした。 ・改正入管法が昨年 12 月に公布され、2019 年 4 月から新たな在留制度が創設されることになったことから、事業計画で 2019 年度に開催を予定していたシンポジウムを、2018 年度内に前倒しして、開催することとした。 <p>(評価)</p> <p>北陸地域の外国人材や受入れ企業の状況やニーズ・要望等を、アンケート、ヒアリング、統計データ等を駆使して明らかにするとともに、受入れ推進にあたっての課題を解決に向けた提言とともに整理できた。</p> <p>次年度は、本調査で取りまとめた提言を踏まえたフォロー活動を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改正入管法が施行されるタイミングでセミナーを開催した。内容は、調査報告のほかに、新たな外国人材の受入れ制度、北陸の持続的な成長を支える留学生の採用・活用に関する講演を加えて、3 部構成とした。 <p>(評価)</p> <p>4 月に創設される新たな外国人材受入れに係る制度・施策、大学での先進的な取り組み、北陸における外国人材の活用と課題と、外国人材の受入れについて、参加者が立体的に理解を深めることができる、有意義なセミナーを開催できた。</p>

アクションプラン実施項目	2018年度事業計画	実施状況	評価・方向性
	<p>○環日本海（極東ロシア、東北三省等）に着目したシンポジウム等の実施</p>	<p>○環日本海経済セミナーの開催</p> <p>日時：11月15日 場所：富山市 テーマ：変容する北東アジア ～北朝鮮の最新情勢と北東アジア国際物流の現況～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナー1 演題：「北朝鮮の変化と北東アジア経済」 講師：ERINA 主任研究員 三村光弘氏 ・セミナー2 演題：「北東アジアにおける国際物流に関する最近の動向」 講師：ERINA 調査研究部長・主任研究員 新井洋史氏 ・参加者：60名 ・主催：北陸 AJEC、ERINA（公財）環日本海経済研究所） ・共催：北陸経済連合会 ・後援：富山県、アジア経済交流センター、ジェトロ富山 <p>○ロシアビジネスセミナーin 福井</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：7月19日（木） 14:00～16:30 ・場所：ホテルフジタ福井 3F ザ・グランユアーズフイ「瑞雲」 ・主催：一般社団法人ロシアNIS貿易会 ・後援：福井県、JETRO 福井、北陸 AJEC、北陸経済連合会 ・概要：日本・ロシアビジネスの可能性 ・参加者：40名 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月に米朝首脳会談を実現した北朝鮮の最新情勢、近年活用が進みつつあるシベリアランドブリッジなど国際物流の現況について、有益な情報発信ができた。 ・日本海を通じ、北陸の対岸にある極東ロシアのエネルギー基地化が進んでいること。安倍総理・プーチン大統領の好関係を活かしたビジネスチャンスが考えられることより、今後とも極東ロシアをテーマとした会議開催は考えていきたい。

アクションプラン実施項目	2018年度事業計画	実施状況	評価・方向性
<p>(2) 環境変化に対応した交流事業の方向性検討・実施</p> <p>①北陸・韓国経済交流会議の効果的な実施</p>	<p>○「第19回北陸(日本)・韓国経済交流会議」(8/26~29 福井市開催)の実施</p>	<p>○第19回北陸(日本)・韓国経済交流会議</p> <p>日時：8月26日(日)~8月29日(水)</p> <p>開催場所：福井県国際交流会館、ホテルフジタ福井</p> <p>全体テーマ：「日韓新ステージにおける地域間連携」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体会議：上記テーマに関し発表、 日本側：中部経済産業局、日華化学(株) 韓国側：産業通商資源部、韓林海運(株) ・セッション1(パネルディスカッション)： テーマ：「幸福度ランキングの意味するもの」 ・セッション2(パネルディスカッション)： テーマ：「日韓新ステージにおける地域間連携」 ・ビジネスマッチング1：日本3社、韓国2社 面談件数：6件 " 2：眼鏡業界マッチング ・産業視察：日華化学イノベーションセンター 加藤吉平商店、セーレン研究開発センター 福井県工業技術センター、鯖江メガネミュージアム ・観光視察：永平寺、一乗谷朝倉氏遺跡、 ・参加者：日本側118名、韓国側41名 	<p>○19回目の北陸・韓国経済交流会議を福井市内で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体テーマを「日韓新ステージにおける地域間連携」とし、発表やパネルディスカッションを福井県国際交流会館の3F 特別会議室 1か所で開催した。 (従来分科会は2, 3カ所に分けて開催していたが今回 同一会議場を使用) ・当日日華化学(株) 江守社長より大邱工場に新たに20億円投資することを発表。 ・日韓の眼鏡業界マッチングを実施。北陸側からは福井県眼鏡業界等、韓国側からは韓国眼光学産業振興院や関連企業が参加。当日10万ドル規模の契約がなされた。 ・韓国若手人材の北陸企業での雇用に対する協力 ⇒2018年11月20日 福井新聞社にてホスピタブル社(在福岡)が中心となり説明会が行われた。 韓国より30名が北陸の企業10社と面談。 ・今回の会議の前後3週間にわたり、北陸先端科学技術大学院大学より、韓国人留学生をインターンシップとして受入れた。留学生にとっても北陸と韓国の現状、企業を知るうえで、AJECにとっても韓国側との意思の疎通を図る上でも留学生の活用は意味があった。

アクションプラン実施項目	2018年度事業計画	実施状況	評価・方向性
②海外諸国との交流 (ASEAN 諸国等)	・関係機関と連携した ASEAN との経済交流促進 ○在大阪ベトナム総領事館、「お互いフォーラム協会」、政策研究大学院大学 (GRIPS) と連携したベトナム、タイ、インドネシアとの経済交流会議の実施	○「ベトナム-日本 貿易・投資セミナー in 富山」 ・日時：5月25日(金) 16:00~20:00 ・場所：パレプラン高志会館 ・主催：富山県、在大阪ベトナム社会主義共和国総領事館 ・共催：北陸 AJEC、北陸ベトナム相互企業進出促進協会 ・後援：JETRO 富山、(公財) 富山県新世紀産業機構、富山県国際経済交流推進協議会、北陸経済連合会 ・発表：ベトナム投資環境解説、富山県進出企業の事例紹介、ベトナム進出の勧め ・参加者：84名 (富山大学6名、富山国際大学3名のベトナム留学生招待) ○「タイとのビジネス交流会議」 ・日時：6月13日(水) ・主催：富山県、タイ王国工業省(ウッタマ工業大臣出席) ・協力：JETRO 富山 ・後援：富山タイ協会、(公財) 富山県新世紀産業機構、富山県国際経済交流推進協議会、北陸 AJEC、北陸経済連合会 ・発表：タイの概況および日系企業の投資動向、EEC(東部経済回廊)等の最新産業政策 ・参加者：105名 ・北陸 AJEC はタイ工業省傘下の「お互いフォーラム協会」と連携協定を結んでおり、本交流会議を支援。 ○「インドネシア行政官との経済交流会議 in 金沢」〈新規〉 ・日時：9月3日(月) 15:30~19:30 ・場所：セミナー 金沢ニューグランドホテル「金扇」 交流会 金沢ニューグランドホテル「パラッツォ」 ・主催：北陸 AJEC ・共催：政策研究大学院大学 (GRIPS)、ジェトロ・アジア研究所、JETRO (富山、石川、福井)、北陸経済連合会 ・後援：石川県商工会議所連合会、JICA 北陸、中小企業基盤整備機構北陸本部 ・発表：JETRO アジア経済研究所東方氏「インドネシアの経済概況」 株式会社タカギセイコー仲安氏「インドネシアに進出してみて」 ・産業視察：東レ(株)石川工場、(株)小松製作所粟津工場 ・参加者：105名 (金沢大学7名、先端大1名のインドネシア人留学生招待)	○在大阪ベトナム総領事館と共催で、北陸企業の海外進出先として注目度 No.1 (北経連アンケート) のベトナム経済交流会議を開催。 最新のベトナムへの投資環境の解説、北陸・ベトナム相互企業進出促進協会よりは7月の視察団派遣案内などの説明あり。 在大阪ベトナム総領事館との連携強化は重要なも政策研究大学院大学 (GRIPS) と連携した「ベトナム政府高官との経済交流会議」と一体化することも検討したい。 ○地元大学で学ぶ留学生を招待するプログラムは留学生にとり北陸と対象国との関係を学ぶ機会として、また、北陸の企業を知る場としても好評。 今後も継続する方針。 ○タイの工業省とは富山県、福井県が MOU 締結済み。今回、パッサコーン産業促進戦略部長より石川県との MOU 締結も考えたいとの話しもあり、石川県に報告済み。 ○北陸企業の海外進出先としての注目度 No.2 であるインドネシアは 2.5 億人を有する国で、市場の大きさも魅了である。 今回の会議は AJEC としては初めてインドネシアを対象とした経済交流会議であった。 ○インドネシア行政官の北陸フィールドトリップは双方からの要望が多く、2019 年も GRIPS と組み 9月1日(日)~3日(火)にて金沢市にて開催予定。

アクションプラン実施項目	2018年度事業計画	実施状況	評価・方向性
		<p>○「第3回 ベトナム政府高官との経済交流会議 in 金沢」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：10月25日（木） 15:30～19:00 ・場所：セミナー 金沢ニューグランドホテル「金扇」 交流会 金沢ニューグランドホテル「銀扇」 ・主催：北陸 AJEC ・共催：政策研究大学院大学（GRIPS）、中部経済産業局、貿易研修センター ・後援：北陸・ベトナム相互企業進出促進協会、北陸経済連合会、JETRO（富山、石川、福井）、JICA 北陸、中小企業基盤整備機構北陸本部、石川県商工会議所連合会 ・発表：中部経済産業局高橋局長：「日越の最新経済関係」 NICCA ベトナム布施社長：「ベトナムに進出してみよう」 三谷産業三谷会長：「北陸ベトナム相互企業進出促進協会発足1年を祝して」 ・産業視察：中村留精密工業（株）、こまつの社、小松マテーレ（株） ・参加者：135名 （金沢大学6名、先端大3名、福井大学1名のベトナム人留学生招待） <p>【その他計画外の活動等】</p> <p>○第1回ベトナム（ハノイ近郊）視察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：7月11日（水）～7月15日（日） ・場所：ハノイ、ハイフォン、クアンニン省 ・主催：北陸・ベトナム相互企業進出促進協会 ・参加者：北陸 AJEC より2名（杉山、下口）参加。 ・概要：平成30年度国際経済産業交流事業（中部経済産業局・貿易研修センター）「北陸・ベトナム地域経済交流促進事業」の支援も得て、北陸ベトナム相互企業進出促進協会の派遣するミッションに参加、ハノイ・ハロン等北部地域の工業団地視察、ジェットロ、大使館訪問、及び計画投資省、クアンニン省の要人を訪問し、情報収集及び意見交換を実施。 	<p>○ GRIPS と AJEC が組んだベトナム政府高官との経済交流会議は3回目となった。第4回は2019年10月24日（木）～26日（土）に富山県にて開催予定。</p> <p>○ ベトナム政府高官メンバーは副大臣クラスをトップに構成されており、将来、北陸フィールドトリップ参加者より閣僚の誕生が期待されている。</p> <p>○ 「北陸・ベトナム相互企業進出促進協会」との連携を強化。共催事業などを推進する。</p> <p>○ 「北陸・ベトナム相互企業進出促進協会」の顧問組織として、2019年のベトナム訪問団を支援していく。</p>
○事業計画外の新規案件	○中国 上海緑地集団（国営デベロッパー）による常設展示場活用案件	○2018年11月13日に上海浦東地区にOPENした同施設（G-HUB）の視察を実施。従来より検討していた越境EC（アリババT-Mall）の北陸物産旗艦店実現が難しく、本常設展示場の活用及び上海緑地集団が展開するG-Super との連携を検討する。	○次年度上海緑地集団を北陸に招き、常設展示場の活用やG-Super との連携を検討する。

2018年度事業計画の実施状況と評価・方向性（広域観光推進委員会）

アクションプラン実施項目	2018年度事業計画	実施状況	評価・方向性
(1) 北陸三県の観光業界が一体となった広域観光の推進 ① 「北陸観光サロン」等の開催による連携強化	○関係機関との調整 ・「北陸三県誘客促進連携協議会」 ・「北陸広域観光推進協議会」 ・「北陸イメージアップ推進会議」 ○「北陸観光サロン」等の開催による連携強化 ・サロンの年2回程度の開催	○関係機関において、以下のとおり、総会・幹事会を開催し、今年度事業計画を決定し、各々の事業を実施中 ・「北陸三県誘客促進連携協議会」（総会 5/18、9/14-15 大阪駅：観光PRイベント、11/3 上野駅：カニPRイベント） ・「北陸広域観光推進協議会」（総会 7/3、10/13 出向宣伝：多賀SA、10/20 出向宣伝：ひるがの高原SA） *総会において、当協議会の会長に久和会長が就任 ・「北陸イメージアップ推進会議」（第1回幹事会：6月27日） （第2回幹事会：1月28日） ○「北陸観光サロン」等の開催 ・中部・北陸はひとつ「サムライ街道」旅行商品化プロモーション（8/22 ホテルナゴヤキャッスル）への参加 ・第8回北陸観光サロン（11月27日）を（一社）中央日本総合観光機構との合同で開催（基調講演：大阪観光局 理事長 溝畑宏氏・じゃらんリサーチセンター研究員 森戸香奈子氏 他）	○関係機関において、今年度事業計画に基づき、着実に事業を実施しており、今後もより効果的な事業を実施する。 ○「北陸観光サロン」等の開催 ・インバウンド対策について、広域周遊観光の必要性や戦略を練り、具体的な数値目標を持つことの重要性など観光戦略について理解を深めた。今後も必要な情報を提供していく。
② 観光産業を担う人材育成への取り組み	○観光産業を担う人材育成への取り組み ・大学生観光まちづくりコンテスト北陸ステージの実施及び3年間の総括 ○広域観光のあり方に関する調査 ・他地域の広域DMOの現状把握等 *DMO (Destination Management Organization) 『地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人』	○観光産業を担う人材育成への取り組み ・大学生観光まちづくりコンテストについて、北陸イメージアップ推進会議と共同で北陸ステージを誘致・開催 *コンテスト説明会 6/6 *予選 8/28 *本選 9/11（金沢市アートホール：24大学30チームの参加） ○広域観光のあり方に関する調査 ・インバウンド観光に取り組むDMOについて（中部社研：調査報告書：5/1） ・観光振興セミナー2018（じゃらんリサーチセンター：7/20） ・ツーリズムEXPO ジャパン（せとうちDMOセミナー：9/20） ・第1回広域観光推進委員会：勉強会「DMOを核としたこれからの観光振興のあり方」（12/5） 講師：JTB総合研究所 主席研究員 山下 真輝	○観光産業を担う人材育成への取り組み ・大学生観光まちづくりコンテスト北陸ステージは今年度で3回目となり、効果検証を実施の上、今後の取扱いについては、北陸イメージアップ推進会議を含めて検討する。 ・主な観光案内所・駅・バス停・観光地・道路案内表示などの外国語表示の現状と課題の調査（大学との連携） ○広域観光のあり方に関する調査 ・インバウンド需要を取り込んでいくことが観光地域づくりの課題。その舵取り役に期待されるのがDMOであり、マーケティングやマネジメントを通して、地域間で差別化していくことが必要であるとの意見を収集。今後、北陸地域として、どのように取り組むべきか引き続き情報収集していく。 ○観光に係る各種データを収集・分析し、情報提供するとともに、データに基づいた戦略策定について検討する。
(2) 国内外に向けた北陸の魅力のより効果的な発信 ① インターネットを使った海外への情報発信	○インターネットを使った海外への情報発信 ・今後も継続して発信 ○北陸物語HP・FaceBookによる情報発信 ・今後も継続して発信	○インターネットを使った海外への情報発信 ・下記ツールによる情報発信 ○北陸物語HP・Face Bookによる情報発信 ・北陸物語HP内の「北陸物語 Vol.3（日本語・英語・台湾語）」の改訂（9/28）	○インターネットを使った国内外への情報発信 ・北陸物語HP・Face Bookによる情報発信を今後も継続していく。 ・北陸物語HP内の情報を更新する（北陸物語 VOL.1の改訂）
② 北陸新幹線ルートを加えた太平洋側との「ゴールデンループ」の形成	○ゴールデンループのPR ・今後も継続して発信 ○「北陸文化」としてのブランド化に向けた取り組み	○ゴールデンループのPR ・名刺の裏面への掲載、会議等でのPRチラシ配布の継続 ・「週刊ホテルレストラン（石川県特集）」掲載（9/7） ・「ディスカバリー北陸プロジェクト」新聞掲載（11/21） ○「北陸文化」としてのブランド化に向けた取り組み	○ゴールデンループのPR ・各種懇談会・マスコミ媒体でのPR活動を実施しており、今後も継続していく。 ○「北陸文化」としてのブランド化に向けた取り組み ・首都圏等でのイベントにより北陸の魅力を情報発信しており、今後も継続していく。

アクションプラン実施項目	2018年度事業計画	実施状況	評価・方向性
(3) 関東、関西、中部をはじめとする大都市圏との交流拡大 ①首都圏でのイメージアップイベントの実施	○首都圏でのイメージアップイベントの実施 ・江ノ電との企画電車、伝統工芸体験教室 ・京浜急行との羽田等での北陸プロモーション ・NEXCO との連携事業（湘南・北陸地域での物産展の開催等）	○首都圏でのイメージアップイベントの実施 ・「湘南・北陸地域連携会議（11/5）」を実施し、江ノ電との企画電車、伝統工芸体験教室等を実施（H31 2/23-24） ・京浜急行との羽田での北陸プロモーション（H31 2/1-2） ・NEXCO との連携事業＜北陸物産展：海老名 SA⑤の開催（H31 1/18-3/17）＞	○首都圏でのイメージアップイベントの実施 ・湘南・北陸地域の連携事業について、今回で7回目となり、効果検証の上、新たな取組みも含め検討する。 ・京浜急行との羽田での北陸プロモーションについて、今回で4回目となり、効果検証の上、新たな取組みも含め検討する。 ・NEXCO との連携事業について、今回で2回目となり、効果検証の上、新たな取組みも含め検討する。 ○関西圏でのイメージアップイベントを実施する。
②経済団体、JR他、関係機関との連携による交流事業への取組み	○経済団体、JR 他関係機関との連携による交流事業の取組み ・昇龍道プロジェクト推進協議会への継続参画 ・「昇龍道トップミッション」参加 ・「中央日本総合観光機構」への継続参画	○経済団体、JR 他関係機関との連携による交流事業の取組み ・昇龍道プロジェクト推進協議会への継続参画（久和会長が副会長）（3/8 第10回昇龍道プロジェクト推進協議会） ・「中央日本総合観光機構」への継続参画（久和会長が副会長） ＊6/28 総会 ＊日本版DMO（広域連携）に登録（7/31） ＊欧州旅行会社招請事業に伴う商談会への協力（11/22） ＊第8回北陸観光サロンを合同セミナーとして実施（11/27）	○経済団体、JR 他関係機関との連携による交流事業の取組み ・インバウンド需要の取り込み及びそのための広域周遊観光の推進に引き続き取り組むため「昇龍道プロジェクト推進協議会」・「中央日本総合観光機構」へ継続参画する
(4) 観光客の増加に伴う諸問題への取組み ①外国語表示・Wi-Fi 整備等	○外国語表示・Wi-Fi 整備等 ・観光インフラに対する要望の実施 ・昇龍道エリアにおける無料 Wi-Fi 環境のプロモーションの実施（「昇龍道 FREE Wi-Fi プロジェクト」） ○民泊サービスの動向把握等 ○インバウンド観光の促進 ・既存の取組みの利活用 ・会員企業を活用した情報発信（2019ラグビーワールドカップ、2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて） ・動向把握	○外国語表示・Wi-Fi 整備等 ・観光インフラに対する北経連政府要望の実施（7/25） ○民泊サービスの動向把握等 ・住宅宿泊事業法（民泊新法）＜6/1 施行＞ ○インバウンド観光の促進 ・既存の取組みの利活用（北陸物語 HP による情報発信） ・「中国・ドイツマーケット研究会」及び「平成31年度訪日プロモーション事業概要説明会＜主催：北陸信越運輸局・JNTO（9/7）＞ ・北陸物語 VOL3（英語版）の900部の増刷（会員企業の海外拠点に発送予定）	○外国語表示・Wi-Fi 整備等 ・観光インフラに対する要望の継続 ・昇龍道エリアにおける無料 Wi-Fi 環境のプロモーションの実施（「昇龍道 FREE Wi-Fi プロジェクト」） ○主な観光案内所・駅・バス停・観光地・道路案内表示などの外国語表示の現状と課題の調査（大学との連携） ○民泊サービスの動向把握等 ・届出件数13,660件（2/15時点） ・上記のうち、富山県42件、石川県13件、福井県7件、金沢市18件 ○インバウンド観光の促進 ・北陸物語 HP による情報発信の継続実施 ・今後、会員企業を活用した情報発信（2019ラグビーワールドカップ、2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて）を実施する。
(5) 新たな視点での観光資源の発掘 ①長期的視点に立った発掘 ・長期滞在型観光の促進に向けた調査提言等 ②女性ニーズ、外国人ニーズにマッチした施設、観光ルートの整備	○「北陸イメージアップ基礎調査報告書（H29.4）」等を活用した要望の継続実施 ○女性ニーズ、外国人ニーズにマッチした施設、観光ルートの整備に向けた現状把握及び要望の実施	○「北陸イメージアップ基礎調査報告書（H29.4）」等を活用した北経連政府要望の実施（7/25） ※H29.4 報告書（調査期間：H28.1 中旬） ○広域観光推進委員会と総合対策委員会女性部会との合同開催（H30.3.12）での女性ニーズとして、広域周遊観光の更なる促進など北経連政府要望を実施（7/25）	○「北陸イメージアップ基礎調査報告書（H29.4）」等を活用した要望の継続実施 ○「平成31年度北陸イメージアップ基礎調査」について、実施し、今後の取組に生かすものとする。 ○女性ニーズ、外国人ニーズにマッチした施設、観光ルートの整備に向けた現状把握及び要望の実施を引き続き行う

アクションプラン実施項目	2018年度事業計画	実施状況	評価・方向性
<p>③ニューツーリズムの創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育観光と産業観光を組み合わせたニューツーリズム ・歴史、スポーツなどのニューツーリズム ・産業観光における時代別、分野別等のルート策定 	<p>○ニューツーリズムの創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行誘致に関して、3県、JRの主導する「北陸3県 修学旅行誘致推進プロジェクト」との連携（教育旅行に、産業観光の組み合わせも継続提案） ・産業観光のあり方に関する検討（産業観光における時代別、分野別等のルート策定） ・歴史、スポーツなどのニューツーリズムの具体的内容について検討 	<p>○ニューツーリズムの創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行誘致を3県、JRと連携し、以下の取組みを実施 <ul style="list-style-type: none"> *修学旅行エクスカーション（8/22-24） *修学旅行説明会（H31 3/4 杉本町・リタ） ・産業観光のあり方に関する検討 <ul style="list-style-type: none"> *第15回北陸地域連携プラットフォーム（主催：北陸財務局）「産業観光の進展に向けた取組（中間報告）（4/19）」 *産業観光フォーラム（主催：北陸財務局・金沢商工会議所）（6/13） *伝統産業を中心とした体験型産業観光プラットフォーム構築支援事業フォーラム～産業観光モデルの創生に向けて～（主催：中部経済産業局）（8/29） *寺島戦略経営塾インダストリアルツアー開催（5/27-28） ・ユニバーサルツーリズム <ul style="list-style-type: none"> *ツーリズム EXPO ジャパン（9/21）での情報収集 	<p>○ニューツーリズムの創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度に北陸新幹線連合体輸送による修学旅行の実施が予定されており、引き続き、教育旅行誘致に関して、3県、JRの主導する「北陸3県 修学旅行誘致推進プロジェクト」と連携していく ・産業観光進展に向けて、北陸財務局のプラットフォームからの提言として、「広域連携の強化・2次交通の充実・ふるさと教育への活用」が挙げられた。また、当会では、ものづくりの体験や見学を行うインダストリアルツアー（箔一・能作・立山科学・津田駒工業）を1泊2日で実施し、概ね好評であったことから、コト消費の視点からも引き続き、産業観光について、情報収集していく。 ・ユニバーサルツーリズムの現状と課題について、今後、検討していく。
<p>(6) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ホームページの運営・管理 ②委員会運営 	<p>○ホームページの運営・管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掲載情報、リンクの改修 <p>○委員会運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会で講演会等を開催し、提言・要望に活かす 	<p>○ホームページの運営・管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPリニューアル、掲載情報改訂 <p>○委員会運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会で講演会開催（JTB 総合研究所 山下主席研究員：12/5） 	<p>○ホームページの運営・管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPリニューアル、掲載情報改訂の継続 <p>○委員会運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会で講演会等を開催し、提言・要望に活かす

2018年度 決算報告書

1. 貸借対照表 2019年3月31日現在

(単位:円)

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
現金・預金	37,519,526	西経協総会引当金	1,400,000
敷金(北国不動産)	1,343,200	創立60周年事業引当金	1,000,000
		情報機器整備引当金	1,000,000
		退職給与引当金	1,227,064
		海外視察引当金	5,000,000
		敷金(北国不動産)	1,343,200
		預り金	268,006
		剰余金	27,624,456
合計	38,862,726	合計	38,862,726

2. 収支計算書 2018年4月1日から2019年3月31日まで

(単位:円)

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
会費収入	89,170,000	事業費	54,368,198
協力金	700,000	会議費	2,638,898
雑収入	31,437	人件費	9,340,204
引当金戻入	14,000,000	事務費	24,176,657
		引当金	7,900,000
前年度繰越金	22,146,976	剰余金	27,624,456
合計	126,048,413	合計	126,048,413

2018年度 北経連 決算

(収入の部)

(単位:円)

	2018年度		差引(B-A)	摘要
	予算額(A)	決算額(B)		
会費	87,120,000	89,170,000	2,050,000	
協力金	700,000	700,000	0	
雑収入	50,000	31,437	▲ 18,563	
引当金戻入	14,000,000	14,000,000	0	創立50周年事業引当金600万円取崩し 情報機器整備引当金500万円取崩し 近未来ビジョン引当金300万円取崩し
前年度繰越金	22,146,976	22,146,976	0	
合計	124,016,976	126,048,413	2,031,437	

(支出の部)

(単位:円、摘要は万円)

	2018年度		差引(B-A)	摘要 (万円未満 切り捨て)	
	予算額(A)	決算額(B)		予算	決算額
事業費	62,300,000	54,368,198	▲ 7,931,802		
委員会活動費	24,850,000	22,576,461	▲ 2,273,539	<ul style="list-style-type: none"> 総合対策委員会 820万円 先端技術推進委員会 400万円 社会基盤整備委員会 430万円 国際交流推進委員会 185万円 広域観光推進委員会 600万円 広報・組織基盤委員会 50万円 	<ul style="list-style-type: none"> 770万円 448万円 283万円 123万円 603万円 29万円
連携活動費	37,450,000	31,791,737	▲ 5,658,263	<ul style="list-style-type: none"> 会員懇談会等 510万円 他経済団体との懇談会等 690万円 行政との懇談会 230万円 支援団体への支援(北経AJEC等) 690万円 その他事業費 855万円 (災害支援金) (0万円) 50周年記念事業費 770万円 	<ul style="list-style-type: none"> 378万円 521万円 269万円 685万円 816万円 (200万円) 508万円
会議費	2,910,000	2,638,898	▲ 271,102		
人件費	10,200,000	9,340,204	▲ 859,796		
事務費	27,650,000	24,176,657	▲ 3,473,343	システム更新497万円	
引当金	2,900,000	7,900,000	5,000,000	<ul style="list-style-type: none"> 2023年西経協総会引当金 70万円 60周年事業引当金 100万円 情報機器等整備引当金 100万円 退職給与引当金 20万円 海外視察引当金 	<ul style="list-style-type: none"> 70万円 100万円 100万円 20万円 500万円
繰越金	18,056,976	27,624,456	9,567,480		
合計	124,016,976	126,048,413	2,031,437		